

【プレスリリース】

お正月にきれいな星空を見上げよう

2011年12月28日

星空公団

◆お正月にきれいな星空を見上げよう

いつもより星の輝きがきわだつお正月、気持ちを新たに星を見上げてみませんか。とくに正月三が日はふだんよりも夜空が暗く星がきれいに見えそうです。星空公団が2年間以上にわたり続けている夜空の明るさ調査のデータからも、1月の始めは年間を通して最も夜空が暗くなることがわかってきました。これは年末年始の休暇など世の中の経済活動と深く関係しています。

星空公団では過去のデータの傾向をもとに、2012年のお正月三が日の夜空の明るさを予想しました。もしお天気が快晴で、暗いところに目が慣れてきた場合にはどのような夜空が見えるのかを、「見える星の数」で表しています。各地の予想をご覧ください。

実際にはもっとよく見えるかもしれませんし、予想と違うかもしれません。震災以降、無駄な照明が減っている効果もわかるかもしれません。ぜひ実際の夜空の様子を自分の目で、自分のカメラで確かめてみてください。

2012年も星空を楽しみながら、夜空を明るくしている原因や、電気エネルギーの使われ方など、身近な星空環境を改めて見つめ直そうと、私たちは考えます。

◆2012年お正月の夜空の見どころ

●月

1月1日は上弦です。宵の空に半分の形の月が輝きます。月は深夜に沈みます。それから翌朝の薄明を迎えるまでが、最も暗い夜空を楽しめる時間帯です。9日の満月まで日に日に月は満ちてきます。

●金星

夕方の南西の空やや低いところでひときわ明るく輝いているのが宵の明星・金星です。金星と木星は光害の影響が強い都会のまん中でもよく見えます。日本の探査機「あかつき」がめざしている惑星です。

●木星

木星は宵の南の空高く、とにかく目を引く存在です。1月2日、3日は月と木星が並んで輝き、みごとな眺めとなるでしょう。

●オリオン座どこまで見える？

オリオン座が空高く見える季節です。三ツ星とそれを囲む主要な星の配列は都会でも確認できますが、光害の少ないところではオリオン星雲の光芒が肉眼でもわかります。

●すばる(プレアデス星団)の星を数えよう

木星の東よりに肉眼でもわかるコンパクトな星の群がりがあります。すばるという和名で親しまれているプレアデス星団です。全国星空継続観察では双眼鏡ですばるの星の見え方を調べます。

● 双眼鏡で星空の名所めぐり

すばるのほかにも、お正月の夜空には双眼鏡での見どころがいろいろあります。アンドロメダ銀河 M31、おうし座のヒヤデス星団、オリオン座の名所であるオリオン星雲 M42、ふたご座の散開星団 M35、かに座のプレセペ星団 M44、などなど。夜空の暗さによって見え方も違ってきます。

● 冬の天の川をチェック

暗いところによく目を慣らして、ペルセウス座付近、ふたご座付近、いっかくじゅう座付近の天の川が肉眼で見えるかどうかチェックしましょう。夏空の天の川に比べると淡い存在ですが、空気の透明度によっては都市部近郊でも写真に写ることがあります。

● カノープスにチャレンジ

真南の方角の地平線ぎりぎりの低いところにりゅうこつ座のカノープスという明るい星が顔を出すことがあります。見ると長生きすると言われている星です。東京ではお正月三が日は 23 時 20 分頃にチャンス到来です。

● 見えるかな？ しぶんぎ座流星群

1月4日もしくは5日の明け方の空に注目すれば流れ星が見られるかもしれません。明け方に流星が増えてくる流星群ですが、活動のピークの時刻はあいにく4日の夕方にあたる年なので出現はあまり多くない可能性があります。夜空が暗い場所ほど見られる流星の数は増えます。

● 「全国星空継続観察」に参加しよう

環境省などが参加を呼びかけてきた恒例の「全国星空継続観察」の冬の観察期間は月明りの影響の少ない1月14日(土)～1月27日(金)です。肉眼や双眼鏡で星空を観察して報告します。ウェブページから参加登録をしておきましょう。

<http://www.env.go.jp/kids/star.html>

● 「デジカメ星空診断」受付中

デジタル一眼カメラで夜空を撮影して投稿するだけで、夜空の明るさを誰でも正確に無料で測ることができます。データの投稿を受付中です。カメラをお持ちの方はぜひウェブページをご覧ください。

<http://dcdock.kodan.jp/>

【お問い合わせ先】

星空公団 小野間史樹／大川拓也

URL: <http://www.kodan.jp/>

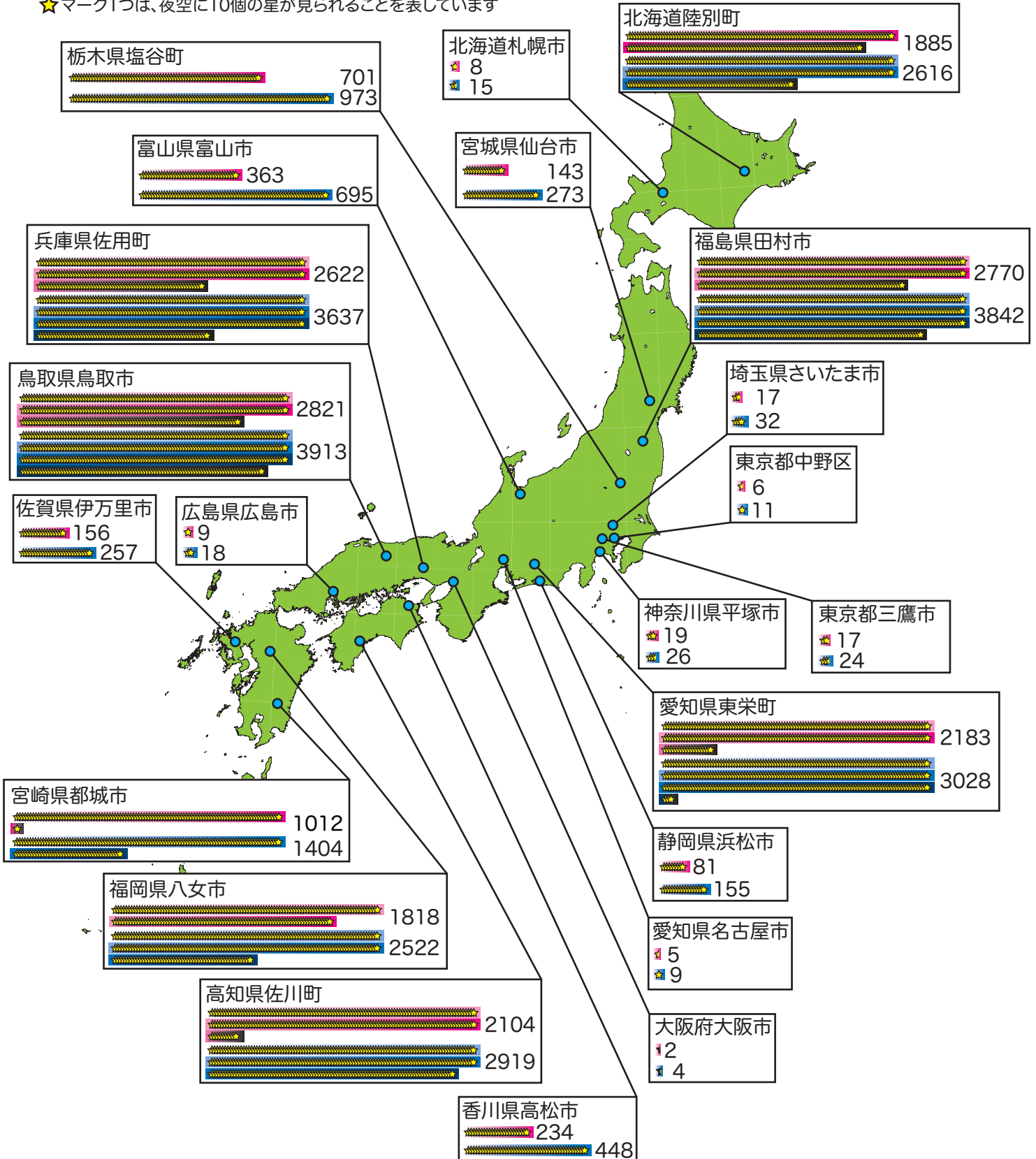
メール: onomama@kodan.jp

2012年正月三が日の夜空の暗さ予測

星空公団では、過去のデータをもとに2012年1月1日から3日の夜空の暗さを予測しました。
2012年の三が日は、経済活動減少の影響と節電の効果により、例年よりも夜空が暗くなることが想定されます。
特に都市部では、明るさが4割程度減少することで、見られる星の数が約2倍になると考えられます。

【凡例】

- ★★★★★ 平年値(2008年～2010年・三が日を除いた値)
- ★★★★★ 2012年予測値(2012年1月1日から3日・月の影響を除く)
- ★マーク1つは、夜空に10個の星が見られることを表しています



※星空公団の都市部の夜空連続観測結果および環境省全国星空継続観測の結果をもとに作成